



内外情勢の回顧と展望

令和2年（2020年）1月



公安調査庁

Public Security Intelligence Agency

●表紙で使用している写真について



- ① (写真提供：コリアメディア提供・共同)
- ② (写真提供：ロイター＝共同)
- ③ (写真提供：AA/時事通信フォト)

内外情勢の回顧と展望(令和2年版)の 発刊に当たって

公安調査庁長官 中川 清明

公安調査庁は、毎年1月、その前年の公共の安全に関わる我が国内外の諸情勢を「内外情勢の回顧と展望」に取りまとめて、発刊しております。ここにその令和2年版をお届けします。

4月30日、30年余り続いた平成時代が幕を閉じ、新たに令和の時代を迎えました。今日、我が国を取り巻く内外の情勢は、日々、めまぐるしく変化し、さらに、ITを始めとする先端技術が急速に進歩する中、令和の時代はこうした変化や進歩が生み出し得る新たな社会不安や脅威に対し、その予兆の把握を始め、迅速かつ適切に対応していくことが一層求められる時代となります。

こうした中、当庁は、公共の安全の確保を任務としており、破壊活動防止法や無差別大量殺人行為を行った団体の規制に関する法律に基づき、オウム真理教に対する観察処分を適正かつ厳格に実施しているほか、我が国の情報コミュニティのコアメンバーとして、国際テロ情勢、我が国周辺情勢、国内諸団体の動向など、我が国の公共の安全に影響を及ぼし得る国内外の諸動向について情報を収集・分析し、これを政府関係機関に適宜・適切に提供することで、政府の各種施策に貢献しております。

平成31年／令和元年（2019年）における内外の諸情勢を見ますと、国外では、北朝鮮の「非核化」をめぐる米朝交渉が停滞する中、北朝鮮が弾道ミサイルの発射を繰り返しているほか、アジア諸国等世界各地で国際テロ事案が依然として続発するなど、我が国の安全保障にとって深刻かつ重大な脅威が認められます。また、中国は、米国との摩擦が中長期的に続く様相を見せる中、「一带一路」構想をツールとした沿線諸国との関係強化を進めており、我が国の外交・安全保障への影響が注目されます。一方、国内では、オウム真理教が麻原彰晃こと松本智津夫らの死刑執行後1年が経過してもなお危険な体質を維持しつつ、資産を増加させているほか、過激派が組織拡大を企図して様々な活動に取り組むなど、警戒すべき動向が認められます。さらには、機密情報の窃取等を狙うサイバー攻撃が常態化し、国家の関与が疑われる高度な攻撃も行われ、我が国を取り巻く内外の情勢は、依然として厳しいと言わざるを得ません。

また、令和2年（2020年）4月に、第14回国際連合犯罪防止刑事司法会議（京都コンGRESS）、そして、7月から9月にかけて東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。当庁は、世界中の注目を集めるこれらのイベントの安全開催に貢献するべく、テロの未然防止や不審動向の早期把握に向けて、情報収集・分析態勢の更なる強化に努めてまいります。

近年、官民協力の重要性が一段と高まっており、公安調査庁では、今後とも国民の皆様への情報発信に一層努めてまいります。皆様におかれましては、本資料を御活用いただきますとともに、当庁の業務について御理解及び御支援を賜りますよう、この場を借りて心からお願い申し上げます。

内外情勢の回顧と展望（令和2年版）の発刊に当たって	1
特集1 2020年東京オリンピック・パラリンピック 競技大会の安全開催に向けて	6
1 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の 全般状況及び安全開催に係る脅威について	6
COLUMN オリンピック・パラリンピック競技大会における ハクティビストによるサイバー攻撃	8
2 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の 安全開催に向けた公安調査庁の取組等	9
COLUMN 京都コンgresにに向けた公安調査庁の取組について	9
特集2 米国との関係で揺れ動いた東アジア情勢	10
1 米朝関係	10
COLUMN 北朝鮮による「新型」弾道ミサイル等の開発	12
2 米中関係	14
3 米露関係	16

【国外情勢】

1 北朝鮮・朝鮮総聯

1-1 米朝交渉が停滞する中、制裁の長期化も視野に 体制の安定維持を図る北朝鮮	19
COLUMN ① 北朝鮮新指導部の顔ぶれ	21
COLUMN ② 憲法改正の注目点	22
1-2 我が国からの「前提条件なしでの対話」 呼び掛けに関心を示すも、応じず。 まず、我が国の対北朝鮮政策転換が 必要との立場	22
COLUMN 対日「過去清算」で連携を 図る南北の団体	24
1-3 金正恩朝鮮労働党委員長の 「権威」扶植と組織の活性化を 図る朝鮮総聯	24
COLUMN 朝鮮人学校の「高校無償化」・ 「幼保無償化」をめぐる動向	26



(写真提供：コリアメディア提供・共同)

2 中国

2-1 「建国70周年」を機に求心力向上に取り組んだ習近平指導部 27

COLUMN 「建国70周年」に際し、「最大規模」の閱兵式を開催 29

2-2 香港で大規模デモが発生、
「返還以来最大の危機」に 30

COLUMN 「世界最長の水上大橋」で接続、
大陸・香港・マカオの経済区域 32



(写真提供：共同通信社)

2-3 「一帯一路」構想を深化させ、
「より公正で合理的な国際秩序」
の構築を目指す中国 33

COLUMN 中国の北極進出をめぐる動向 35

2-4 習近平国家主席の国賓訪問を見据え、
日中関係改善を推し進めた中国 36

2-5 台湾の総統選挙を視野にせめぎ合いが続く两岸関係 37

3 ロシア

3-1 プーチン政権への国民の不満が顕在化、外交面で
「大国ロシア」の威信確保に向けた取組を継続 40

COLUMN ① 岐路に立つプーチン大統領の「国民対話」 42

COLUMN ② アフリカ諸国との関係強化を模索するロシア 42

3-2 経済協力など二国間関係の拡大を
進める一方、北方領土に対する
主権を誇示 43

COLUMN 北方領土に光ファイバ
ケーブルが開通 45



(写真提供：タス=共同)

4 国際テロ

4-1 依然として続く国際テロの脅威 46

COLUMN テロ組織によるドローンの活用 46

4-2 影響力の維持を図る「イラク・レバントのイスラム国」(ISIL) 47

COLUMN シリアに残る「イラク・レバントのイスラム国」(ISIL) 49
戦闘員の家族らの潜在的脅威



(写真提供：AA/時事通信フォト)

4-3 世界各地で続く「イラク・レバントのイスラム国」(ISIL) の脅威 50

COLUMN フィリピン南部で続発する自爆テロ 53

4-4 「アルカイダ」は、求心力回復を企図して宣伝活動を継続 53

COLUMN アフガニスタンで存在感を増す「タリバン」 56

5 サイバー攻撃をめぐる動向

5 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、脅威が深刻化・巧妙化するサイバー攻撃 57



(写真提供：アフロ)

6 大量破壊兵器関連物資等をめぐる動向

6 軍事転用可能物資・技術の獲得・拡散を狙った活動 59

COLUMN 各国は大学を舞台とした中国の先端技術の獲得動向を懸念 61



(写真提供：AFP=時事)

【国内情勢】

1 オウム真理教

1-1 麻原らの死刑執行後1年が経過するも、危険な体質を維持するオウム真理教 63

COLUMN 被害賠償をめぐる動向 65

1-2 死刑執行後も“麻原絶対”を堅持する主流派 67

COLUMN ① 若い世代をターゲットとした巧妙な勧誘活動 68

COLUMN ② 「Aleph」の資産状況 68



1-3 本質的な変化がない上祐派 69

COLUMN 観察処分の期間更新決定取消訴訟の現状 69

2 過激派

2 組織の維持・拡大をもくろみ、各種活動に取り組んだ過激派 70

COLUMN 過激派の反天皇制闘争 72



3 共産党

3 無党派層への支持拡大を企図し、独自の主張を展開 73



(写真提供：時事)

4 右翼団体など

4 御代替わりや近隣諸国との諸問題を捉えて活動した右翼団体など 74

COLUMN 御代替わりの奉祝活動に力を注いだ右翼団体は、皇室典範改正の動きを警戒 76



巻末資料 (1~11月国内外の主要公安動向) 77

公安調査庁WEBサイトのご案内 84

※この「内外情勢の回顧と展望」(令和2年版)は、平成31年/令和元年(2019年)における内外公安動向を回顧し(11月現在)、今後を展望したものです。なお、本文中、特に断りのない限り「○月」との表記は、原則として平成31年/令和元年(2019年)の当該月を指し、本文に記載した人物の肩書は当時のものとしています。